



Data

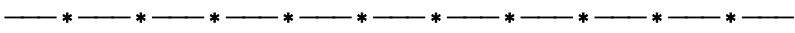
監督：ブライアン・コーク
 脚本：アダム・マーヴィス/マシュー・マイケル・カーナハン
 出演：チャドウィック・ボーズマン / シエナ・ミラー / ステファーン・ジェームズ / キース・デイヴィッド / テイラー・キッチュ / J・K・シモンズ / アレクサンダー・シディグ / ルイス・キャンセル / ヴィクトリア・カルタヘナ

👁️👁️ みどころ

水の町、商人の町、大阪は村田英雄の『王将』で歌われたように“八百八橋”に囲まれているが、ニューヨーク市の最中心部たるマンハッタン島は“21ブリッジ”で！

強盗殺人犯を追跡するため“21ブリッジ”を封鎖せよ！コロナ禍、都市の“ロックダウン”は世界中に見られたが、そんな命令の実行は可能な？

そんなアイデアが本作の発端。シドニー・ポワチエ、デンゼル・ワシントン、ウィル・スミスの系譜に連なる黒人の名俳優、チャドウィック・ボーズマンの遺作となった本作では、手に汗握るクライム・アクションを楽しむと共に、NY市警85分署の“構造汚職”の実態にしっかり迫りたい。



■大阪は八百八橋だが、マンハッタンは21ブリッジ！■

ニューヨークを舞台にした映画や、ニューヨークをタイトルにした映画は多い。マンハッタンはニューヨーク市の地区。また、ブルックリンはニューヨークの にある。しかし、本作のタイトル『21ブリッジ』とは一体ナニ？

東京は当時の“都市設計家”だった徳川家康が造った町。それに対して大阪は豊臣秀吉が造った町だ。徳川幕府の中心になった江戸に対し、商人の町となった大阪は、淀川を中心とする水運が盛んになったうえ、「八百八橋」と称され、たくさんの橋が重要な役割を果たした。それは村田英雄が歌った有名な「王将」の歌詞からも明らかだ。

ニューヨーク市を構成する5つの行政区の1つであるマンハッタン区は、ハドソン川河口部の中州にあるマンハッタン島が大部分を占めている。言うまでもなくマンハッタン区、ブルックリン区、クイーンズ区、ブロンクス区、スタテンアイランド区という5つの行政区から構成されているニューヨーク市は世界の中心地だが、その中でもマンハッタン区は

タイムズスクエアやウォール街を有する商業、金融の集積地だ。そんなマンハッタン区は地理的に“21ブリッジ”で他地区に連絡しているから、この“21ブリッジ”を封鎖すれば、マンハッタンの都市封鎖は可能に・・・？

本作のタイトルが『21ブリッジ』というタイトルにされたのは、一体なぜ？それは、主演兼プロデューサーのチャドウィック・ボーズマンが、殺人強盗犯を追跡するためにニューヨーク・マンハッタン島にかかる21の橋をすべて封鎖する、というシンプルかつ大胆なアイデアに惚れこんだためだ。もっとも、中国の武漢を見るまでもなく、新型コロナウイルスの感染を防止する都市の“ロックダウン”は可能だが、それは国家的意思によるもの。そう考えれば、1本の映画を作るために、「21ブリッジ」を封鎖するなんてことがホントにできるの？

■□■『キネマ旬報』で特集！■□■

『キネマ旬報』4月下旬号は26頁から35頁まで、10ページにわたって本作を特集し、①芝山幹郎（映画評論家・翻訳家）「単細胞に見えて不思議に頭のよい映画」、②猿渡由紀（映画ジャーナリスト）「チャドウィック・ボーズマンの思いをのせて」、③杏レタト（映画ライター）「ブラックムービー史からみる『21ブリッジ』」の3本の解説を載せた。これはきっと主演兼プロデューサーのチャドウィック・ボーズマンが2020年に43歳の若さで亡くなったため、その哀悼の意を込めたもので、それぞれが興味深い読みモノだが、とりわけ、上記③は読みごたえがある。

私が強く印象に残っている三大黒人俳優は、①『夜の大捜査線』（67年）等のシドニー・ポワチエ、②『マルコム X』（92年）等のデンゼル・ワシントン、③『アリ』（01年）（『シネマ 2』190頁）等のウィル・スミスの3人。したがって、『ブラックパンサー』（18年）で主演した黒人俳優、チャドウィック・ボーズマンを私は知らなかったが、上記③によれば、同作によって90年代ブラック・ルネサンスのブームのような現象が再び巻き起こったらしい。それなのに、『ブラックパンサー』の続編を待っている最中にチャドウィック・ボーズマンは他界してしまったわけだ。そんな俳優、チャドウィック・ボーズマンについて上記③では、「ポワチエの正統派を継ぎ、ワシントンのように時代を超えるスター性と実力を兼ね備えた稀有な俳優、チャドウィック・ボーズマン。脈々と続いてきたブラックムービーの歴史の中で、2010年以降の潮流を象徴するような大きな存在であった。」と絶賛している。

■□■犯人もビックリ！なぜここに300kgもの麻薬が？■□■

本作は、退役軍人のマイケル（ステファン・ジェームズ）とレイ（テイラー・キッチュ）が、ブルックリンにあるレストラン、“モスト”のワインセラーに隠されているコカインを盗み出すためマスク姿で進入するシークエンスから始まる。裏道に車を止め、ワインセラーに侵入し、30kgのコカインを袋に詰めて出発。マシンガンは持っているが、それはあくまで念のためだ。ところが、そんな事前の手はずとは異なり、そこには店員がいた他、

ワインセラーの中には聞かされていた量の10倍にも上る300kgの大量のコカインがあったからビックリ。更に想定外だったのは、すぐに多数の警察官が突入してきたことだ。マイケルは何とか隠れようとしたが、レイは軽率にも警察官の1人を射殺したため、現場はたちまち激しい銃撃戦に。

7人の警察官を射殺し、1人に瀕死の重傷を負わせることができたのは、2人の犯人の軍人としての経験だが、こうなれば、約50kgのコカインだけを手にレストランから逃走するほかない。逃走中も運転するレイに対して、マイケルは冷静に「信号を守れ」と命じたのは、ニューヨーク市内に張り巡らされている領域監視システム、ロウアー・マンハッタン・セキュリティ・イニシアティブ (LMSI) を意識したため。ロンドンは今や監視カメラだらけだが、中国はもっとすごいらしい。しかして、ニューヨーク市警が活用しているロウアー・マンハッタン・セキュリティ・イニシアティブの威力は？

■NY市警85分署が“21ブリッジ”の封鎖命令を！■

映画が描くニューヨーク市警 (NYPD)、とりわけその85分署にはこれまでもいろいろ個性の強い刑事が登場するが、本作でチャドウィック・ボーズマンが演じるニューヨーク市警のアンドレは殉職した警察官の息子で、「良心に従うこと。善悪の判断を他人に左右されないこと。この残酷な世界で、正しい道を進むことを」をモットーに生きている殺人課の刑事だ。本作導入部では、13年前のアンドレ少年の姿と、今は優秀な刑事でありながら9年間で8人を射殺したということで“内務調査”を受けているアンドレの姿が登場する。アンドレは、それはあくまで「正義の代価だ」と主張しているが、真相はさて…？ そんなアンドレが凄惨なレストランの現場にやってくると…？

他方、今、犯行現場を仕切っているのは、85分署の署長であるマッケナ警部 (J・K・シモンズ)。アンドレがマッケナ警部から事件の解決を指示されたのは実績からして当然だが、なぜ麻薬課のフランキー・バーンズ刑事 (シエナ・ミラー) と組むことになったの？ 大量のコカインが盗まれた事件だからフランキーと組むのは当然といえば当然だが、いくら麻薬課として有能でも、子供と一緒に暮らすママさん刑事のフランキーには凶悪犯逮捕というハードな任務は難しいのでは？

そんな現場には、信号を無視して暴走する2人組の犯人らしき姿が捉えられた、との吉報が。逃亡犯の行き先がブルックリンだと読んだアンドレは、マンハッタン島に架かる21の橋すべてをはじめ、川やトンネル、列車などを止め、島全域を封鎖するという大胆な案を提示。マッケナ警部も即座にそれをOKし、FBIや当局の許可を取り付けたから、マッケナ警部も有能だ。ただし、武漢市のロックダウンは何か月も続いたが、マンハッタン島に架かる21ブリッジの封鎖は午前5時まで。つまり、アンドレ刑事とフランキーは、それまでの犯人逮捕が至上命令とされたわけだが…。

■30kgのコカイン強奪の依頼主は？犯人の逃亡先は？■

本作導入部の展開を観ていると、『21ブリッジ』というタイトルどおりの問題提起に大

成功！さあ、犯人たちは封鎖されたマンハッタン島から脱出し、逃亡できるの？犯人たちが目指す逃亡先はアンドレが読んだとおり、すぐお隣のブルックリン？それとも、アンドレと対立している FBI の読みどおり、外国・・・？

本作中盤は、マイケルとレイが連絡係だったトリアノ・ブッシュ（ルイス・キャンセルミ）を脅して、麻薬強奪の依頼主であるホーク・タイラー（ゲイリー・カー）と対決する物語、更にマイアミに高飛びするため偽の身分証明書をつくる男・アディ（アレクサンダー・シディグ）と対決する物語、が展開していく。

30kgのコカイン強奪という、危険のない（？）気楽な仕事（？）だったはずなのに、多数の警察官を殺す羽目になったのは依頼主の責任だ。それがマイケルとレイの言いたかったことだが、私に言わせれば、今さらそんなことを議論しても仕方ない。そう考えると、今度はなぜかそこに大量のニューヨーク市警の面々が湧きつけてきたうえ、ドアのぞき穴から警告もなしにいきなりアディの目を撃ったから、アレレ・・・？自分のアジトに2人の犯人を含めた関係者を集めて話し合いをしていたアディにもいろいろと言いたいことがあったはずだが、死に際に「クールハンド」と言いながら謎の USB をマイケルとレイに託しただけ。さあ、この USB には一体何が？

■□■NY市警は横暴？市民の守り手？こんなあんな疑問！■□■

「潜入もの」や「マフィアもの」を観ていると、警察官とヤクザ（マフィア）が意外にも上層部でつながっていたり、「警察上層部は汚職まみれ」という実態が浮かび上がってくるケースが多い。「警察じゃけえ、何をしてもええんじゃ」と役所広司扮する広島県警の警察官（巡査部長）が広島弁でまくし立てていた『孤狼の血』（18年）（『シネマ42』33頁）でも、女性作家・柚月裕子の原作に沿って“ヤクザと警察の癒着ぶり”が描かれていた。同作で役所広司が演じていた主人公も一匹狼だったが、『ダーティーハリー』（71年）でクリント・イーストウッドが演じた警察官も同じような一匹狼。そう考えると、本作のアンドレは、ある意味優秀で模範的な警察官だが、過去に警察官を殺した犯人を殺したことで“内務調査”を受けているくらいだから、やっぱりアンドレも一匹狼・・・？本作中盤からはアンドレのそんな本性（？）が少しずつ暴露されていくので、それに注目！

マイケルとレイにとって、なぜ犯行直後の現場にあんなに大勢の NY 市警の警察官が急襲したのかが疑問なら、アディにとっては自分のアジトを NY 市警が急襲し、いきなりアディを撃ったのかが疑問。一刻も早く犯人を追い込まなければならぬアンドレもそれと同じ疑問を持ちながら、やっとブッシュの根城であるクラブ“パンナム”に到着すると、ここにも先に到着していた NY 市警 8 5 分署の警察官がブッシュを射殺した後だったから、アレレ・・・。さらに、マイケルとレイが逃げ込んだ食肉工場で、アンドレはレイを射殺しマイケルと対峙したが、そこではアンドレの相棒であるフランキーがマイケルの人質にされてしまったから、さあ、アンドレはどうするの？

捜査の第一線で銃撃戦を含むハードな捜査を続けながら、アンドレの頭の中に次から次

に湧いてくるそんな疑問は、ひょっとして“あのUSB”を開けば明らかに・・・？

■□■黒幕は誰だ？癒着・汚職の実態は？その仕組みは？■□■

ヤクザ映画にはいつも博打場（賭場）が登場するが、ヤクザの収入源（しのぎ）の基本はその博打収入ではなく、みかじめ料。つまり、用心棒代だ。弁護士の顧問料もこれとよく似たものだが、それは弁護士もやくざと同じ“自由業”だから仕方ない。

それに対して、警察は公務員だから、その給料は地位に応じて固定されている。しかし、それだけではお小遣いに不足するため、多くの警察官が求めるのは“内緒のお小遣い”。警察官でも残業し、長時間勤務すれば残業手当や精勤手当がもらえるが、それらはすべて“表の金”だから使い勝手が悪い。何とか警察官が“自由に使えるお小遣い”として、“裏金の支給”はできないの？それができれば、日夜市民のために働いているニューヨーク市警の警察官は、もっとよく働くはずだ。『孤狼の血』の主人公は、自分だけ“裏のお小遣い”を稼いでいたが、NY市警85分署の有能な署長・マッケナ警部なら、NY市警の警察官全員のためにそう考えたとしても何ら不思議ではない。すると、ひょっとして、本作における“黒幕”の正体はNY市警85分署のマッケナ署長？

黒幕の正体は？癒着・汚職の実態は？その仕組みは？そんな構造的な問題をしっかり考えながら、本作ラストでは、マッケナ警部の自宅に1人で乗り込むアンドレの姿と、2人の究極の対決をしっかり見極めたい。

2021（令和3）年4月19日記